#### 光・量子融合連携研究開発プログラムでcERLにて行う研究開発に 関する報告。 加速器研究機構 浦川順治 2013.10.24

◆ 「光・量子融合連携研究開発プログラム」の英語名称は Photon and Quantum Basic Research Coordinated Development Program

- ◆ 小型高輝度X線源イメージング基盤技術開発
- Fundamental Technology Development for High Brightness X-ray Source and the Imaging by Compact Accelerator



Application of advanced laser and accelerator technology for our life.

### 文部科学省委託事業

http://nkocbeam.kek.jp/ from 2013.8

未来を照らす新しい光・・・ 光合成からX線ガン治療へ最適な光子ビーム生成



電子ビーム(200~600MeV)による逆コンプトン散乱(ICS)。 サブMeVから~7MeV範囲のTunable高輝度ガンマ線生成技術開発。 この為に波長1µmのパルスレーザー蓄積共振器開発。 目標はMW級平均パワーと安定な20μm(σ) waist sizeを光共振器 内に安定に実現することである。 レーザー蓄積装置開発の詳しい報告: 「次世代レーザーコンプトン散乱ガンマ線とその応用」 (ISSN 1342-3185, IAE-RR-2013 No.101, pp.128-141) 本講演:開発状況と問題点、今後の開発計画。 ーザーパルス

ATF Damping Ring: 1.3GeV, 10μm Electron beam 10W mode-lock laser Oscillator, 357MHz-→av.24MeV γ generation

## γ-ray generation based on ICS with 3D Optical Cavities **Experiments at the KEK ATF**



# 4 mirror cavities are at the ATF

# KEK-Hiroshima installed 2011

relatively simple control system employs new feed back scheme LAL-Orsay installed summer 2010

sophisticated control digital PDH feedback

2013年、再インストール及 びレーザー再調整によって 、peak 101kW蓄積及び 100% 近いCoupling確認。 現在、ATFでlock時39kW 蓄積。 コンプトンガンマ生成12月

コンプトンガンマ生成12月 から開始予定。



## 光共振器の共鳴制御 3D-4M Cavityの偏極特性を利用した制御



# **Cavity control**



### 最近の開発状況と問題点 Finesse measurement

#### **Airy Function**



#### **Decay time measurement**



**Airy Function** 

Finesse: FWHM / FSR = $4040 \pm 420$ 

#### Life time of the laser light

2πct / L =4040±110







蓄積開始直後

強度安定後



#### 鏡表面をマイクロダスト除去することによる損失の低下の確認試験





τ=1.02×10<sup>-5</sup>±1.34×10<sup>-7</sup>[s]
⇒R=0.999866±2.62×10<sup>-6</sup>
⇒損失=30ppm
損失の改善に成功



20.00%/

Stop

-98.80

20.005

4

# 今後の開発方針およびスケジュール

### Study Plan

クリーン環境は簡易的なものだができつつある >Particle数は荒木さんが計測済み

手袋 マスク 帽子 服 等も準備

マイクロダスト 除去用イオン銃 の利用

真空引きや大気 解放時、バルブを 使ってslowに行う。







V 🛃





### Electron

Rey Hari

#### LUCX Optical Cavity

2 inches mirror

昨年度(2012年)の構想イメージ

X-ray

LUCXタイプの4枚ミラー光共振器 衝突角14度 2 inches mirror 4枚使用 ダブルベローズ方式、ヘキサポットムーバー で真空外からサポートして6軸で動かす。 レーザー光路で収束する光路と収束させない 光路がビームダクトと交差するので、ビーム ダクトに大きな穴が必要。短バンチビームに とって問題である。

解決策:水平2次元4枚ミラー共振器から垂直 2次元4枚ミラー共振器へ。

収束点でのレーザービームプロファイルが猫目 形状になる。

ヘキサポットムーバーによる高フィネス実験は 今後の課題。増大率1000倍は可能か??? 図案は本田君提供。







新しい案として、同じ2台 の2次元垂直平面共振器 を右図のように重ねること 可能である。 それぞれの共振器に偏光 性の違ったレーザーパル スを蓄積して、電子ビーム 衝突とのタイミング制御に より、高速でX線やγ線の 偏極性が切り替え可能。

真空対応のSUSで製作した 鳥籠と呼んでいるフレームは、 機械加工で高精度に製作でき 162.5MHzの光共振器製作を 仮定する場合、178.5MHzの3 次元共振器製作の実績から十 分な剛性がほぼ保証される。 この共振器によりミラー破壊や 熱効果による共鳴状態悪化を Factor 2で緩和できる。 共振器複数台の重ね合わせ 技術への展開へつながる。



鳥籠3次元光共振器開発によって、long 及び short piezoの取り付けや制御技術、ミラー あおり機構等の技術はほぼ増大率10000倍を達成できる状況にある。 実績のある共振器ムーバーが必要であるが、以下のものを既に所有・運転している。次年 度の7月までにcERLで利用できるように準備できる。



3台のムーバーは再利用、 床常磐と光学テーブルは cERL施設に合わせる。 剛性と振動抑制対策を行う。 600mW及び45W、162.5MHz Mode-lock laser systemが Optical table上設置可能と なるように光学テーブルを 拡張する。

ただし、162.5MHz 600mW mode-lock 発振器を使った調整によって、新光共振器を3月まで にreadyにする。その後、45W mode-lock発振器でミラー耐久試験や特性測定を6月まで行い、 7月から8月の期間でcERL施設にムーバー架台と新光共振器設置および制御系移設を行い 9月から運転を開始する。(レーザー安全検査申請、運転許可)

#### コンパクトERLにおけるガンマ線生成実証実験

コンパクトERLに機器を追加して、 レーザーコンプトンγ線の発生と利用の 実証実験を行う。(in 2015) X-ray生成。



#### 35MeVから60MeV Second phase of cERL plan in ~2018?

Illustration by Rey Hori

電子銃 500kV DC

> Detector facility for Gamma-ray detection

LCS-ガンマ線発生装置(光・量子 融合連携の小型高輝度X線源イ メージング基盤技術開発で開発)

LCS実験設価

Four mirror optical cavity for Gamma-ray generation

60MeV Electron Beam, 532nm (green laser) 1.3GHz collision, X-ray 130keV Number of photons per 1% width 5x10<sup>13</sup> photons/sec 130keVx5x10<sup>13</sup>=1.04J/s 330 kGy (X-ray size 0.2mm diameter)

#### クリーンな環境をローカルに作製して、インストールを行った。 クリーンな服装とHEPAによるクリーンブース化





インストール直前にFirstContactと呼ばれる高分子膜でクリーニングを行い、 かつイオンガンで静電気除去+ブローしてからインストール さらに真空排気するが、排気速度が速いとチャンバー内のホコリを巻き上げるた め、100Torrまではゆっくりと排気する

>国立天文台 辰巳さん にいろいろ伺った





